

当社のコーポレート・ガバナンスの状況は以下のとおりです。

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及び資本構成、企業属性その他の基本情報

1. 基本的な考え方

当社グループは、「情報革命で人々を幸せに～技術の力で、未来をつくる～」を理念として掲げ、ICTサービス事業を展開しています。株主をはじめとする様々なステークホルダーとの適切な協働に努め、豊かな情報化社会の実現に貢献することを通じて、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を目指します。そのためには透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための仕組みを適切に整備することが必要不可欠であり、継続的にコーポレート・ガバナンスの充実を図る所存です。

【コーポレートガバナンス・コードの各原則を実施しない理由】更新

当社は、コーポレートガバナンス・コードの各原則を全て実施しています。

【コーポレートガバナンス・コードの各原則に基づく開示】更新

【原則1 - 4】(政策保有株式)

「上場株式の政策保有およびその縮減に関する方針」

当社は、中長期的な企業価値向上の観点に立ち、業務提携や取引関係の構築・維持・強化等の事業上の必要性および投資の経済合理性等の検討を十分に行った上で、必要と判断する場合に限って上場株式の政策保有を行います。

また、当社は、毎年、取締役会において、政策保有の上場株式について、銘柄別に、継続保有することによる提携関係の強化等といった事業上のメリットに加えて、投資先の直近の業績、当社保有株式の含み損益の状況、株価下落リスク等の要素も中長期的な視点で勘案した上で、継続保有の是非を検証しております。

「政策保有株式に係る議決権行使基準」

当社は、政策保有株式の議決権の行使にあたっては、議案ごとに内容を精査し、投資先の株主価値を毀損するものでないか、当社との提携関係を損なうものでないか等を総合的に判断した上で、適切に議決権を行使します。

【原則1 - 7】(関連当事者間の取引)

当社は、関連当事者との取引については、通常一般の取引条件により行うものとし、当該取引が当社や株主共同の利益を害するおそれがある場合は、取締役会において取引の承認や報告することとし、適切に監督を行っています。また、取締役による競業取引や利益相反取引についても、同様に取締役会における取引の承認および取引後の報告を行うこととしています。

【原則2 - 4】(女性の活躍促進を含む社内の多様性の確保)

【補充原則2 - 4】

当社は、社内における多様性の確保を推進しています。当社の多様性確保の状況は、2023年4月現在、全社員に対する女性比率は18.9%であり、管理職層に占める女性比率は7.2%です。また、外国籍社員比率は2.0%です。

中核人材の登用等に関しては、属性に依ることなく役割に応じて平等に登用する「ミッショングレード制」という人事制度を導入しています。

人材育成に関しては、社員が自己のキャリア目標に向かって主体的にキャリアアップできるような研修及び人材育成制度の仕組みを整えることで、一人一人の更なる成長を支援する方針です。人材育成方針に基づき、社内環境整備として能力開発休暇や試験費用・資格取得時の奨励金支給、社員同士で学び合える仕組みなどを用意しています。

また、サステナビリティ活動のマテリアリティのKPIの中で「女性活躍の推進」として管理職層に占める女性の割合を2035年までに15%にする目標を掲げ、積極的に取り組んでおります。

女性活躍支援における取組みの成果として女性活躍推進法に基づく「えるぼし」の最高位(3段階目)の認定、出産や育児をする社員が仕事と子育ての両立を図りやすい環境の整備の成果として次世代育成支援推進法に基づく「くるみん」の認定を受けています。

【原則2 - 6】(企業年金のアセットオーナーとしての機能発揮)

当社は特定の企業年金基金には加入していません。なお、企業型確定拠出年金制度を導入していますが、運営管理機関・運用商品の選定や従業員に対する資産運用に関する教育を適宜行っています。

【原則3 - 1】(情報開示の充実)

当社は、下記(i)～(v)について、次のとおり情報提供を行っています。

(i) 会社の目指すところ(経営理念等)や経営戦略、経営計画

当社は、株主、従業員、顧客、取引先をはじめとした各ステークホルダーからの信頼と共感をより一層高めるため、経営理念および当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けたビジョンや経営計画について、当社ウェブサイトや決算説明会資料等において公表しています。

(ii) 本コードのそれぞれの原則を踏まえた、コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方と基本方針

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方と基本方針は、コーポレート・ガバナンス報告書および当社ウェブサイトにおいて開示しています。本報告書「1. 基本的な考え方」をご参照ください。

(iii) 取締役会が経営陣幹部・取締役の報酬を決定するに当たっての方針と手続

当社の社外取締役を除く取締役の報酬体系は、インセンティブの一つとして機能すべく、固定報酬としての基本報酬と変動報酬としての業績連動賞および株式報酬(譲渡制限付株式報酬およびストックオプション)とで構成しています。個別の報酬額は、役員報酬に関する社内規程に従い、会社の業績、貢献度および経済状況等を総合的に勘案して、指名・報酬諮問会議における審議を経て適正に決定されます。なお、社外取締役の報酬については独立した立場から経営の監視・監督機能を担う役割に鑑み、基本報酬のみとしています。

(iv) 取締役会が経営陣幹部の選解任と取締役・監査役候補の指名を行うに当たっての方針と手続

取締役候補者および監査役候補者の選任は、取締役・監査役および外部有識者などの推薦に基づき、代表取締役社長およびその指名する取締役が面談を行い、候補者が多様な経験、知識、高い専門性および見識を有しているかなどの確認を行い、独立社外取締役がその過半数を占める指名・報酬諮問会議にて意見交換・協議したうえで、監査役候補者については監査役会の同意を経て、取締役会において株主総会に付議する選任議案を決定しています。取締役および監査役の解任は、解任すべき事情が生じた場合、取締役会において、十分な審議を尽くしたうえで、株主総会に付議する解任議案を決定します。

(v) 取締役会が上記(iv)を踏まえて経営陣幹部の選任と取締役・監査役候補の指名を行う際の、個々の選解任・指名についての説明

取締役候補者および監査役候補者の選任について、個々の略歴、選任理由および重要な兼職の状況等を株主総会招集通知に記載し説明しています。また、取締役および監査役の解任について、解任理由を株主総会招集通知に記載し説明します。

【補充原則3 - 1】

1: 自社のサステナビリティの取組み

「多様な働き方と挑める環境で先進技術と創造性を磨き、社会に新しい価値を提供し続ける」をビジョンに掲げ、当社は、お客様の事業を支援することによる社会的な課題への取組みや、事業活動及び企業活動を通じ持続可能な社会の実現を目指してまいります。

当社のサステナビリティの考え方や方針、取組みについては当社のホームページをご参照ください。

「サステナビリティ」 <https://www.softbanktech.co.jp/corp/sustainability/>

2: 人的資本や知的財産への投資等

当社のマテリアリティでは「成長を牽引する人的資本の拡充と、事業創出の仕組みの構築」を定めており、「1人1人の成長が会社の成長につながる」人事戦略に基づき、能力開発の仕組みや働きやすい職場環境の提供等を通じ、従業員のエンゲージメントを高める施策を実施してまいります。

3: 気候変動に係るリスク及び収益機会が与える影響について

気候変動により引き起こされる異常気象や、気候変動対策への社会的要請の高まり等を受けて、当社においても、気候変動が将来的に当社に及ぼすリスクと機会を把握するとともに、現状の気候変動対策の有効性を検証し、必要に応じて将来の戦略策定に活かすことが肝要であると考えます。

当社はTCFD提言に沿って、シナリオ分析、自社活動への影響を整理すると共に各種対策を進め、気候変動に関する継続的な情報更新を進めてまいります。

「気候変動への取り組み(TCFD)」 <https://www.softbanktech.co.jp/corp/sustainability/esg/environment/>

【原則4 - 1】(取締役会の役割・責務(1))

【補充原則4 - 1】

取締役会は、法令、定款および取締役会規程の定めに従い、当社グループの重要な業務執行に関する事項を決定し、その他の業務執行については、職務権限に関する社内規程に基づき業務執行取締役および執行役員等にその権限を委任しています。

【原則4 - 9】(独立社外取締役の独立性判断基準及び資質)

独立社外取締役等の独立性判断基準については、当社ウェブサイトにおいて開示しています。

https://www.softbanktech.co.jp/-/media/SMC/corp/ir/management/governance/pdf/20151125_shagai_2020.pdf

【原則4 - 10】(任意の仕組みの活用)

【補充原則4 - 10】

当社の独立社外取締役は取締役会の過半数に達しており、経営陣幹部・取締役の指名・報酬などに関して、適切な関与・助言を得ることができる体制を整えています。

また、取締役の指名・報酬等に関しては、任意の会議体である指名・報酬諮問会議がその調査・審議・提言を行う役割を担い、適正に決定されています。当該会議のメンバーは、その過半数を独立社外取締役で構成し、かつ議長を社外取締役が務めることでその独立性を確保しています。

【原則4 - 11】(取締役会・監査役会の実効性確保のための前提条件)

【補充原則4 - 11】

当社は、取締役会において、取締役会の全体としての知識・経験・能力のバランス、多様性および規模に関する考え方を次のとおり定め、開示します。

「取締役会全体としての知識・経験・能力のバランス、多様性および規模に関する考え方」

取締役会は、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に必要な、取締役会全体としての知識・経験・能力のバランス、多様性を確保するため、社外取締役については、企業経営者、有識者などを、経験・見識・専門性を考慮して選定することとし、また社内取締役については、当社の各分野の業務執行をカバーできるバランスを確保しつつ、その経験・見識・専門性などを踏まえ、的確かつ迅速な意思決定が行えるよう、適材・適所の観点より総合的に評価・判断して選定します。

取締役会の規模については、適正に配置した執行役員への権限委譲を前提として、意思決定の迅速化を図るための取締役会の簡素化と適切な審議、執行の監督を行うために必要かつ、適切な規模とし、定款において9名以内と定めています。

なお、各取締役の知識・経験・能力等を一覧化したいわゆるスキル・マトリックスの策定についても開示しています。

【補充原則4 - 11】

当社の役員には他の上場会社の役員を兼任する者もいますが、その数は合理的な範囲であり、当社の取締役・監査役としての役割・責務を適切に果たすことができるものと考えています。なお、当社は、職務専念や利益相反等の予防を目的として、役員が兼務する場合には、取締役会決議を必要とし、役員個々の属性、兼務先の状況、その他全体のバランス等を取締役会で審議したうえで、兼任の可否を判断しています。また、取

取締役および監査役の、他の上場会社の役員以外の兼任についても同様となります。取締役および監査役の重要な兼任の状況は、事業報告、有価証券報告書およびコーポレート・ガバナンス報告書等を通じて、毎年開示しています。

【補充原則4 - 11】

当社取締役会は、取締役および監査役の全員を対象として、アンケートおよびインタビューを行い、第三者のアドバイスを受けながら、アンケートの回答内容・インタビュー結果の集計・分析を行い、結果を取締役に共有の上、自己評価を実施し、開示していく方針です。上記方針に則り、取締役会の実効性評価を継続していくことにより、取締役会の実効性のさらなる向上に努めてまいります。

「取締役会実効性評価」 <https://www.softbanktech.co.jp/corp/ir/management/governance/>

【原則4 - 14】(取締役・監査役のトレーニング)

【補充原則4 - 14】(取締役・監査役に対するトレーニングの方針)

当社は、取締役および監査役が、その役割・責務を果たすために必要なトレーニングの機会を継続的に提供することを基本方針としています。取締役および監査役は、ソフトバンクグループ全体で開催される定期的な役員研修や当社が加盟する団体等の主催する外部セミナー等に積極的に参加することで、必要な知識、あるいは時勢に応じた新しい知識の習得や研鑽に努めています。

【原則5 - 1】(株主との建設的な対話に関する方針)

当社は、株主との対話について責任者および担当部署を定め、代表取締役を中心に取締役およびIR担当執行役員と経営企画部が連携しながらその任に当たることとします。また、財務経理、法務、総務等の各部署が、経営企画部と日常的な情報交換および決算等の開示・説明の際に各々の専門的見地に基づく意見交換を行い、株主との対話を補助する有機的な連携体制を構築します。当社は、株主・投資家に当社の事業に対する理解を深めていただくために、アナリスト向け決算説明会の開催、機関投資家からの取材やスモールミーティングの実施、個人投資家向け説明会の実施、当社ウェブサイトを通じた情報提供等により対話の充実に努めるとし、そこで寄せられた意見・懸念は、取締役会や経営陣に適宜報告を行います。これらの活動に際して、未公表の重要事実の取扱いについては、インサイダー取引防止に関する社内規程に従い適切に管理し、公平な情報開示を徹底します。

【補充原則5 - 1】

当社は、株主との建設的な対話を促進するための方針に即して、(i)～(v)について、次のとおり対応しています。

() () 当社では、取締役CFOをIR担当取締役に選任しております。また、経営企画部を窓口としIR担当を中心に活動を行っておりますが、IRに関連する他部署との情報共有を密にし、連携を取っております。

() 当社では、投資家・アナリスト向けに四半期ごとの決算説明会を開催し、代表取締役社長が直接説明を行っております。

() IR活動およびそのフィードバックについては、IR委員会という会議体にて毎月報告を行い、経営層との情報共有を図っております。また四半期に一度取締役会において報告を実施しております。これらのフィードバックにより、株主・投資家の皆さまが分かりやすいよう業績開示を変更したり、業績予測についてもマーケット別に開示するよう変更いたしました。

() 対話にあたっては、フェア・ディスクロージャー・ルールを尊重し、インサイダー取引規制上の重要事実の取扱いに細心の注意を払っています。

【原則5 - 2】(経営戦略や経営計画の策定・公表)

当社は、長期的な視点に立って事業の拡大、収益の向上、財務基盤の強化とともに株主資本の充実に努めることを資本政策の基本的な方針としており、経営戦略、中期経営計画、単年度の業績予想を公表しています。目標達成に向けた具体的な施策や進捗について株主総会、決算説明会、個人投資家説明会、ホームページ等を通じて説明することとしています。

また、資本コストについては一定の前提を置きながら把握に努め、資本コストを上回る自己資本利益率(ROE)を達成している状況を継続していると認識しておりますが、現時点において経営指標の目標値は置いておりません。適切な資本コストを踏まえたうえでの経営計画策定や投資判断などに向けて検討を深めてまいります。

2. 資本構成

| | |
|-----------|-------|
| 外国人株式保有比率 | 10%未満 |
|-----------|-------|

【大株主の状況】 更新

| 氏名又は名称 | 所有株式数(株) | 割合(%) |
|---|------------|-------|
| ソフトバンク(株) | 10,735,000 | 54.04 |
| (株)日本カストディ銀行(信託口) | 1,749,000 | 8.80 |
| 日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口) | 1,196,400 | 6.02 |
| SBテクノロジー従業員持株会 | 334,134 | 1.68 |
| 佐藤 友一 | 180,400 | 0.91 |
| CACEIS BANK, LUXEMBOURG BRANCH / UCITS CLIENTS ASSETS | 155,000 | 0.78 |
| 山田 勝男 | 122,400 | 0.62 |
| J.P. MORGAN CHASE BANK 385781 | 119,431 | 0.60 |
| 石川 憲和 | 115,600 | 0.58 |
| J. P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 381593 | 102,800 | 0.52 |

| | |
|-----------------|-------------------------------|
| 支配株主(親会社を除く)の有無 | |
| 親会社の有無 | ソフトバンク株式会社 (上場:東京) (コード) 9434 |

アセットマネジメントOne(株)から、2021年9月7日付(報告義務発生日:2021年8月31日)にて提出された大量保有報告書の変更報告書により、当社が当社株式1,112,200株を保有している旨の開示がなされております。しかし、当社として当事業年度における同社の実質所有株式数の確認ができていないため、上記大株主には含めておりません。当該大量保有報告書の変更報告書の内容は次のとおりです。

大量保有者 アセットマネジメントOne(株)
 住所 東京都千代田区丸の内一丁目8番2号
 保有株券等の数 株式 1,112,200株
 株券等保有割合 4.89%

3. 企業属性

| | |
|---------------------|-----------------|
| 上場取引所及び市場区分 | 東京 プライム |
| 決算期 | 3月 |
| 業種 | 情報・通信業 |
| 直前事業年度末における(連結)従業員数 | 1000人以上 |
| 直前事業年度における(連結)売上高 | 100億円以上1000億円未満 |
| 直前事業年度末における連結子会社数 | 10社以上50社未満 |

4. 支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針

当社は、親会社との取引等について、他の取引相手先同様に、案件に対する原価に販売費及び一般管理費、適正利益、市場動向等を勘案して、販売価格を決定しております。また、価格条件の算定及び決定についても、他の取引先と同様であります。

5. その他コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与える特別な事情 更新

【当社親会社について】

親会社との関係

・当社の親会社は、ソフトバンクグループ(株)(以下「SBG」)、ソフトバンクグループジャパン(株)(以下「SBGJ」)及びソフトバンク(株)(以下「SBKK」)です。SBKKは、当社株式10,735千株(議決権比率54.1%)を直接所有しています。また、SBGおよびSBGJはSBKKの親会社であり、当社株式を間接的に所有しています。親会社のうち、当社に与える影響が最も大きいと認められる親会社は、直接の親会社であるSBKKとなります。
 ・親会社との相互シナジーおよびIT連携の強化等を目的として親会社の従業員1名が当社の取締役就任に就任しています。また、情報交換および監視機能強化等を目的として、親会社の従業員1名が当社の監査役に就任しています。
 ・当社はSBKKに対して商品の販売及びシステム開発・技術支援等の取引を行っています。また、当社は、SBKKとの間でブランド使用許諾契約を締結しており、同契約に従い「SB」の名称等を使用することを許諾されています。SBKKとの取引に当たっては、案件に対する原価に販売費及び一般管理費、適正利益、市場動向等を勘案して価格を決定するよう留意しています。

親会社におけるグループ経営に関する考え方および方針

SBKKは、「情報革命で人々を幸せに」という共通の経営理念の下、情報・テクノロジー領域において、さまざまな事業に取り組んでいます。SBKKグループは、子会社の自立性を重んじ、その独立性を確保しながらも、シナジーを創出し、共に進化・成長を続けていくことを目指し、その結果として、グループの企業価値を最大化することを目指しています。

親会社からの独立性確保に関する考え方およびそのための施策

当社は前記のとおり親会社を有していますが、前記親会社におけるグループ経営に関する考え方および方針に基づき、独自の意思決定・経営判断に基づき当社グループの事業展開を行っています。親会社と当社との間では、契約当事者とならないSBGならびにその子会社および関連会社を拘束する条項(競争禁止を含む)を含む契約の締結ならびにソフトバンクブランドの使用を除き、事業活動を行う上での承認事項などの制約はありません。また、親会社の従業員1名が当社取締役に就任していますが、当社取締役9名の半数に至る状況にはなく、さらに独立性を有する社外取締役に5名選任しており、全取締役の過半数を占めています。従いまして、経営において、当社の独立性は十分に確保されていると考えています。

【当社上場子会社について】

当社におけるグループ経営に関する考え方および方針

当社は、ソフトバンクグループにおけるICTサービスの中核企業として「情報革命で人々を幸せに～技術の力で、未来をつくる～」の企業理念のもと、常に最先端のICT技術習得に挑戦し、お客様の業務効率化やコストの削減にとどまらず、本業の成長を共にICTサービスで実現していくビジネスパートナーを目指しております。当社が属するICT分野の技術進歩は非常に速いため、お客様に高付加価値サービスを提供し続けていくには

多種多様な事業者と連携していくことが重要です。当社グループは、子会社の自立性を重んじ、その独立性を確保しながらも、各社でシナジーを創出し、共に進化・成長を続けていくことを目指し、その結果として、グループの企業価値を最大化することを目指しています。

上場子会社のコーポレート・ガバナンス体制の実効性確保に関する方針

当社は、当社グループのグループ全体に対する管理方針・管理体制および関連する諸手続について定め、当社グループ全体における業務の円滑化・効率化と管理の適正化・公正化を図ることを目的として「SBTグループ会社管理規程」を定め、子会社における重要な意思決定等に関して、当社への事前承認または報告を求めています。ただし、上場子会社については独立性及び少数株主保護の観点から、当該事前承認を求めず、また当社の開示義務等に影響を与えるものに限定して、報告を求めており、当社が上場子会社の意思決定を不当に拘束することがないように配慮しています。

上場子会社を有する意義

当社は、上場会社であるサイバートラスト㈱(以下「CTJ」)を有しています。CTJは、認証技術をベースとしてインターネット空間での「ヒト・モノ・コト」の正しさを証明するトラストサービスを提供しております。CTJのトラストサービスは、当社サービスとの連携によるシナジー効果が見込め、当社グループ全体の企業価値向上に資するものと考えております。またトラストサービスは、デジタル化社会における新たな社会インフラであり、このような公共性あるサービスは、中立的な立場で行うことが求められております。当社としては、CTJが、株式市場での評価を受けながら、高い透明性、公正、中立な立場で事業に取り組むとともに、少数株主の利益に配慮した自律的な経営を行うことがCTJの成長に資するものと考えており、現時点ではCTJの上場を維持することが望ましいと判断しています。

経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の状況

1. 機関構成・組織運営等に係る事項

| | |
|------|---------|
| 組織形態 | 監査役設置会社 |
|------|---------|

【取締役関係】

| | |
|------------------------|--------|
| 定款上の取締役の員数 | 9名 |
| 定款上の取締役の任期 | 1年 |
| 取締役会の議長 | 社長 |
| 取締役の人数 | 9名 |
| 社外取締役の選任状況 | 選任している |
| 社外取締役の人数 | 5名 |
| 社外取締役のうち独立役員に指定されている人数 | 5名 |

会社との関係(1)

| 氏名 | 属性 | 会社との関係() | | | | | | | | | | |
|--------|----------|-----------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | a | b | c | d | e | f | g | h | i | j | k |
| 鈴木 茂男 | 他の会社の出身者 | | | | | | | | | | | |
| 宗像 義恵 | 他の会社の出身者 | | | | | | | | | | | |
| 富永 由加里 | 他の会社の出身者 | | | | | | | | | | | |
| 宮川 由香 | 他の会社の出身者 | | | | | | | | | | | |
| 澤 円 | 他の会社の出身者 | | | | | | | | | | | |

会社との関係についての選択項目

本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「」、「過去」に該当している場合は「」

近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「」、「過去」に該当している場合は「」

- a 上場会社又はその子会社の業務執行者
- b 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
- c 上場会社の兄弟会社の業務執行者
- d 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
- e 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
- f 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
- g 上場会社の主要株主(当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者)
- h 上場会社の取引先(d、e及びfのいずれにも該当しないもの)の業務執行者(本人のみ)
- i 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者(本人のみ)
- j 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者(本人のみ)

会社との関係(2) 更新

| 氏名 | 独立役員 | 適合項目に関する補足説明 | 選任の理由 |
|--------|------|--------------|--|
| 鈴木 茂男 | - | - | <p>企業運営の豊富な経験と幅広い見識を有しており、当社の経営を監督していただくとともに、取締役の指名・報酬等を審議する指名・報酬諮問会議に議長として出席し、独立した客観的立場から会社の業績等の評価を報酬に反映させる等、経営陣の監督に務めています。IT業界に関する幅広い経験および見識による助言をいただくことにより業務執行の監督機能の強化を図り、事業運営に対して豊富な知見に基づく有益な助言をいただくため、社外取締役として選任しております。なお、鈴木茂男氏は当社の兄弟会社であるソフトバンクBB(株)(現SB C&S(株))において2005年まで業務を執行していましたが、出身会社を退職してから相当な期間が経過し、またその間独立して活動を行っており、出身会社の意向に影響される立場にないと考えております。その他にも、同氏について、当社との間で独立性が疑われるような属性等はありませんので、一般株主と利益相反の生じるおそれはないものと判断し、独立役員に指定しております。</p> |
| 宗像 義恵 | - | - | <p>企業運営の豊富な経験と幅広い見識を有しており、当社の経営を監督していただくとともに、取締役の指名・報酬等を審議する指名・報酬諮問会議に出席し、独立した客観的立場から会社の業績等の評価を報酬に反映させる等、経営陣の監督に務めています。半導体デバイスに関する幅広い知見と、当社がサービスプロバイダーとして成長していくために必要な事業戦略やマーケティング戦略について知見を提供いただくことにより、業務執行の監督機能の強化と事業運営に関する有益な助言をいただくため適切な人材と判断し、社外取締役として選任しております。また、宗像義恵氏について、当社との間で独立性が疑われるような属性等はありませんので、一般株主と利益相反の生じるおそれはないものと判断し、独立役員に指定しております。</p> |
| 富永 由加里 | - | - | <p>エンジニア出身としての経験や企業運営の豊富な経験、それらを兼ね備えた幅広い見識を有しております。前職にてチーフ・ダイバーシティ・オフィサーとしても活躍された経験から女性活躍を含めた多様性の実現やサステナビリティ対応を含めて、当社の経営を監督していただくとともに、取締役の指名・報酬等を審議する指名・報酬諮問会議に出席し、独立した客観的立場から会社の業績等の評価を報酬に反映させる等、経営陣の監督に務めています。業務執行の監督機能の強化と事業運営に関する有益な助言をいただくため適切な人材と判断し、社外取締役として選任しております。また、富永由加里氏について、当社との間で独立性が疑われるような属性等はありませんので、一般株主と利益相反の生じるおそれはないものと判断し、独立役員に指定しております。</p> |

| | | |
|-------|---|---|
| 宮川 由香 | - | IT業界におけるセールス・マーケティング職としての経験と企業運営の豊富な経験、それらを兼ね備えた幅広い見識を有しております。職場での多様性受け入れの必要性に関するセミナー実施等でも活躍されており、女性活躍を含めた多様性の実現やサステナビリティ対応を含めて、当社の経営を監督していただくとともに、業務執行の監督機能の強化と事業運営に関する有益な助言をいただくため適切な人材と判断し、社外取締役として選任しております。また、宮川由香氏について当社との間で独立性が疑われるような属性等はありませんので、一般株主と利益相反の生じるおそれはないものと判断し、独立役員に指定しております。 |
| 澤 円 | - | エンジニア職を起点とし、グローバルIT企業において経営全般を経験したのち、最近ではセキュリティ・アドバイザー、エンジニアのマネジメント、人材育成と多岐にわたる知見をふまえて企業顧問として活動されるなど、幅広い見識を有しております。世界のIT領域における最新動向やそれを日本国内にローカライズするに際しての幅広い見識や予測もふまえて当社の経営を監督していただくとともに、業務執行の監督機能の強化と事業運営に関する有益な助言をいただくため適切な人材と判断し、社外取締役として選任しております。また、澤円氏について当社との間で独立性が疑われるような属性等はありませんので、一般株主と利益相反の生じるおそれはないものと判断し、独立役員に指定しております。 |

指名委員会又は報酬委員会に相当する
任意の委員会の有無

あり

任意の委員会の設置状況、委員構成、委員長(議長)の属性

| | 委員会の名称 | 全委員(名) | 常勤委員 (名) | 社内取締役 (名) | 社外取締役 (名) | 社外有識者 (名) | その他(名) | 委員長(議 長) |
|----------------------|-----------|--------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------|-------------|
| 指名委員会に相当 する任意の委員会 | 指名・報酬諮問会議 | 5 | 0 | 1 | 3 | 0 | 1 | 社外取 締役 |
| 報酬委員会に相当 する任意の委員会 | 指名・報酬諮問会議 | 5 | 0 | 1 | 3 | 0 | 1 | 社外取 締役 |

補足説明

指名・報酬諮問会議は、取締役の指名・報酬について、取締役会の諮問を受けて調査・審議・提言するための機関であり、取締役会によって選出された社外取締役を含むメンバーによって組織されております。

【監査役関係】

| | |
|------------|--------|
| 監査役会の設置の有無 | 設置している |
| 定款上の監査役員数 | 4名 |
| 監査役員数 | 4名 |

監査役、会計監査人、内部監査部門の連携状況 更新

内部監査室は、年度監査計画の立案時に監査役に意見を求め、常勤監査役との定期的な連絡会議において、監査結果の報告、意見交換を行い、その結果は常勤監査役から監査役会へ報告されています。また、監査役とは、必要に応じて共同監査の実施を検討するなど、緊密な連携を図っております。また、会計監査人とも、適宜、監査結果の報告や意見交換を行っております。

会計監査人は、四半期決算、通期決算の後、四半期レビュー及び監査結果について監査役会に報告し、監査役は監査計画に基づいて実施した監査について、必要に応じて会計監査人に報告し、意見交換を行うなど、3者は相互に連携しております。

| | |
|------------------------|--------|
| 社外監査役の選任状況 | 選任している |
| 社外監査役の人数 | 3名 |
| 社外監査役のうち独立役員に指定されている人数 | 3名 |

会社との関係(1) 更新

| 氏名 | 属性 | 会社との関係() | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-----------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | a | b | c | d | e | f | g | h | i | j | k | l | m |
| 上野 光正 | 公認会計士 | | | | | | | | | | | | | |
| 廣瀬 治彦 | その他 | | | | | | | | | | | | | |
| 中野 通明 | 弁護士 | | | | | | | | | | | | | |

会社との関係についての選択項目

本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「 」、 「過去」に該当している場合は「 」、

近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「 」、 「過去」に該当している場合は「 」、

- a 上場会社又はその子会社の業務執行者
- b 上場会社又はその子会社の非業務執行取締役又は会計参与
- c 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
- d 上場会社の親会社の監査役
- e 上場会社の兄弟会社の業務執行者
- f 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
- g 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
- h 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
- i 上場会社の主要株主(当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者)
- j 上場会社の取引先(f、g及びhのいずれにも該当しないもの)の業務執行者(本人のみ)
- k 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者(本人のみ)
- l 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者(本人のみ)
- m その他

会社との関係(2) 更新

| 氏名 | 独立役員 | 適合項目に関する補足説明 | 選任の理由 |
|-------|------|--------------|--|
| 上野 光正 | - | | 公認会計士として培われた財務および会計に関する専門的な知見ならびに豊富な経験を独立した立場から当社の監査に反映していただき、社外監査役として選任しております。なお、東京証券取引所が定める独立性基準にいずれも抵触しておらず、一般株主と利益相反の生じるおそれはないものと判断し、独立役員に指定しております。 |
| 廣瀬 治彦 | - | | 公認会計士として培われた財務および会計に関する専門的な知見ならびに豊富な経験を独立した立場から当社の監査に反映していただき、社外監査役として選任しております。(なお、廣瀬治彦氏は、現在日本公認会計士協会への登録はしていません。)また、東京証券取引所が定める独立性基準にいずれも抵触しておらず、一般株主と利益相反の生じるおそれはないものと判断し、独立役員に指定しております。 |

| | | |
|-------|---|--|
| 中野 通明 | - | 弁護士としての企業法務に関する専門的な知見および豊富な経験を独立した立場から当社の監査に反映していただいております。なお、東京証券取引所が定める独立性基準にいずれも抵触しておらず、一般株主と利益相反の生じるおそれはないものと判断し、独立役員に指定しております。 |
|-------|---|--|

【独立役員関係】

| | |
|---------|----|
| 独立役員の人数 | 8名 |
|---------|----|

| |
|---------------|
| その他独立役員に関する事項 |
|---------------|

独立役員の資格を充たす社外役員をすべて独立役員に指定しております。

【インセンティブ関係】

| | |
|---------------------------|----------------------------|
| 取締役へのインセンティブ付与に関する施策の実施状況 | 業績連動報酬制度の導入、ストックオプション制度の導入 |
|---------------------------|----------------------------|

| |
|--------------|
| 該当項目に関する補足説明 |
|--------------|

報酬等の一部は業績評価に基づいて支給されます。また、業績向上に対する意欲や士気を高め、企業価値の増大を通じて株主の皆様利益向上を実現させることを目的として2022年6月20日株主総会決議により、ストックオプション制度および譲渡制限付株式報酬制度の2本立ての株式報酬制度を導入しております。

| | |
|-----------------|-------------------------------|
| ストックオプションの付与対象者 | 社内取締役、従業員、子会社の取締役、子会社の従業員、その他 |
|-----------------|-------------------------------|

| |
|--------------|
| 該当項目に関する補足説明 |
|--------------|

当社取締役および従業員ならびに当社子会社取締役および従業員に対し、業績向上に対する意欲や士気を高め、企業価値の増大を通じて株主の皆様利益向上を実現させることを目的としてストックオプションを付与しております。

【取締役報酬関係】

| | |
|-----------------|---------------|
| (個別の取締役報酬の)開示状況 | 個別報酬の開示はしていない |
|-----------------|---------------|

| | |
|--------------|----|
| 該当項目に関する補足説明 | 更新 |
|--------------|----|

役員区分ごとの報酬等の総額(百万円)、報酬等の種類別の総額(百万円)および対象となる役員の員数(名)(2023年3月期)

| 役員区分 | 報酬等の総額 | 基本報酬等 | | 業績連動報酬 | | 対象となる役員の員数 |
|----------------|--------|-------|-----|--------|------|------------|
| | | 固定報酬 | その他 | 役員賞与 | 株式報酬 | |
| 取締役(社外取締役を除く。) | 169 | 79 | 7 | 64 | 18 | 3 |
| 社外役員 | 52 | 52 | 0 | - | - | 8 |

(注) 株式報酬の額は、ストックオプションとして付与した新株予約権および譲渡制限付株式の付与のための報酬等に係る当連結会計年度中の費用計上額であります。

報酬の額又はその算定方法の決定方針の有無

あり

報酬の額又はその算定方法の決定方針の開示内容

「株主総会招集ご通知」の事業報告において、役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針を記載しておりますので、ご参照ください。

【社外取締役(社外監査役)のサポート体制】更新

経営企画本部を中心とする取締役会事務局が、各社外役員に対して、取締役会の案内、議案資料等の配布等を行い、事前説明を行っております。

2. 業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項(現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要)更新

当社は、会社法に基づき取締役会および監査役会を設置するとともに、執行役員制度を採用しており、現行の経営体制は、取締役9名、執行役員10名(うち取締役兼務者3名)、監査役4名であります。

当社の取締役は9名以内とすることおよび任期は1年とすることを定款で定めております。

当社の取締役会は、健全で透明性・客観性の高い経営を実現できるよう、独立性の高い社外取締役が過半数を占める構成となっております。監査役のうち社外監査役は3名であり、それぞれ独立した視点から経営監視を行っております。

当社のコーポレート・ガバナンス体制において重要な役割を担うものとして、コーポレートオフィサー会議が設置されております。同会議は、原則として毎週開催され、執行役員等によって日常の事業活動における課題と事業戦略等が審議されます。連結子会社におきましては、当社執行役員等が取締役および監査役として経営課題等について検討するなど、当社グループ全体のコーポレート・ガバナンスについて理解と徹底を図っております。

さらに会社の意思決定の透明性・公平性をより確保するため、独立社外取締役を議長とし、独立社外取締役が過半数の構成員である指名・報酬諮問会議が設置されております。同会議では、取締役の報酬制度や水準、取締役の選解任について審議されます。

なお、会計監査の状況は次のとおりです。

a. 監査法人の名称
有限責任監査法人トーマツ

b. 継続監査期間
1997年以降

c. 業務を執行した公認会計士
小林 弘幸氏、石川 航史氏

d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士9名、会計士試験合格者等4名、その他17名です。

e. 監査法人の選定方針と理由

当社は、下記fに記載の、監査役会による監査法人の評価結果を踏まえて、監査品質や独立性を確認し、有限責任監査法人トーマツの再任を判断いたしました。なお、監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨およびその理由を報告いたします。

f. 監査役および監査役会による監査法人の評価

当社監査役会は、監査役監査基準において、会計監査人を適切に選定、評価するための基準を定めています。当該基準に基づいて、取締役及び社内関係部署から必要な資料を入手し、かつ報告を受けるほか、会計監査人から必要な資料を入手し、かつ報告を受け、会計監査を適正に行うために必要な品質管理、監査体制、独立性及び専門性等を総合的に検討した上で、監査法人の評価を行っております。

3. 現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由

当社は、取締役会の独立性・客観性を高め、経営監督の実効性を確保するため、独立性の高い社外取締役5名を選任し、取締役会の過半数を独立社外取締役で構成しております。独立社外取締役は中立的かつ客観的な立場から当社経営に対する意見を述べ、取締役の業務執行に対する監督機能を果たすなど、コーポレート・ガバナンスが有効に機能するための重要な役割を果たしております。

また、経営に関する機能を分担して、意思決定権限と責任の明確化及び業務執行の迅速化を図るため、執行役員制度を導入しております。

さらに、独立社外監査役を含めた監査役による監査体制が経営監視機能として有効であると判断し、監査役会設置会社を採用しています。監査役会設置会社として、監査役の機能を有効に活用しながら経営に対する監査・監視機能の強化を図っております。取締役会には、豊富な職務経験を有する監査役が常に出席して、適法性及び妥当性の観点から意見を述べるとともに、監査役会としての意見をまとめて定期的に社長に対して提出しており、経営監視機能を果たしております。

以上により、当社のコーポレート・ガバナンスは有効に機能していると判断しております。

株主その他の利害関係者に関する施策の実施状況

1. 株主総会の活性化及び議決権行使の円滑化に向けての取組み状況 更新

| | 補足説明 |
|--|---|
| 株主総会招集通知の早期発送 | 当社は、株主が株主総会議案の十分な検討期間を確保し、適切に議決権を行使することができるよう、株主総会の3週間前を目途に招集通知を発送しています。 また当社は、株主総会の招集に際し、株主総会参考書類等の内容である情報について電子提供措置をとる旨を定款で定めており、招集通知の発送よりも早期に、TDnetおよび以下の自社ウェブサイトにて株主総会資料の電子提供措置を開始し、招集通知を電子的に公表しています。 https://www.softbanktech.co.jp/corp/ir/event/shareholders/ |
| 集中日を回避した株主総会の設定 | 株主との建設的な対話の充実の観点から、より多くの株主がご出席いただけるよう、いわゆる集中日を回避して開催日を設定しております。 |
| 電磁的方法による議決権の行使 | より多くの株主が議決権を行使できるよう、インターネットによる議決権行使の仕組みを導入しております。 |
| 議決権電子行使プラットフォームへの参加その他機関投資家の議決権行使環境向上に向けた取組み | 議決権電子行使プラットフォームに参加しております。 |
| 招集通知(要約)の英文での提供 | 招集通知の英訳版を作成し、議決権電子行使プラットフォームを通じて提供するとともに、当社のウェブサイトに公表しております。 |
| その他 | 当社は、招集通知、決議通知、経営方針説明資料および事業報告に関する動画を当社ホームページに掲載しております。 |

2. IRに関する活動状況

| | 補足説明 | 代表者自身による説明の有無 |
|-------------------------|---|---------------|
| ディスクロージャーポリシーの作成・公表 | 情報開示の基本方針、開示方法等を当社ウェブサイトに掲載しています。 | |
| 個人投資家向けに定期的説明会を開催 | 原則として、年に数回程度開催しております。 | なし |
| アナリスト・機関投資家向けに定期的説明会を開催 | 原則として、四半期決算発表の当日に開催しております。 | あり |
| 海外投資家向けに定期的説明会を開催 | 今後の株主構成等を考慮した上で、検討してまいります。 | なし |
| IR資料のホームページ掲載 | 有価証券(四半期)報告書、決算短信、四半期財務業績の概況、株主通信、決算説明会資料、個人投資家説明会資料、ニュースリリースを掲載しております。 | |
| IRに関する部署(担当者)の設置 | 経営企画部 | |

3. ステークホルダーの立場の尊重に係る取組み状況

| | 補足説明 |
|------------------------------|--|
| 社内規程等によりステークホルダーの立場の尊重について規定 | 当社は、コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方に記載のとおり、株主をはじめとする様々なステークホルダーとの適切な協働に努める旨を定めております。また当社のすべての役職員が自らの業務を行う際に遵守すべき行動指針「役職員コンプライアンス・コード」を策定し、健全かつ公正な業務遂行に取り組んでおります。 |

| | |
|---------------------------|--|
| 環境保全活動、CSR活動等の実施 | 当社は、社会・環境問題をはじめとするサステナビリティをめぐる課題について適切な対応を行ってまいります。CSR活動を含めサステナビリティ活動の基本的な考え方や主な取組みを当社のホームページに開示しております。 https://www.softbanktech.co.jp/corp/sustainability/ |
| ステークホルダーに対する情報提供に係る方針等の策定 | 当社は「ディスクロージャーポリシー」に、東京証券取引所が定める「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示等に関する規則」および金融商品取引法その他の関連法令・法規に従って適時適切に情報開示を行うことや法定開示や適時開示の対象となる情報に限らず、投資判断に影響を与えると思われる重要な情報についても公平かつ迅速に開示する旨を定めております。 |
| その他 | 従業員に対しては、四半期ごとに決算内容に関する説明を実施しており、また、財務諸表をはじめとする決算情報、ニュースリリース、催事、イベントのお知らせ等は常時当社ホームページに掲載してステークホルダーにお知らせしております。さらに、株主、投資家等からの電話やメールによる問い合わせに対しては、経営企画部がお答えしております。 |

内部統制システム等に関する事項

1. 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

当社は、取締役会において、業務の適正を確保するための体制整備についての基本方針を以下のとおり決議しております。

a. 取締役および従業員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

当社は、「役職員コンプライアンス・コード」を基本指針として、取締役・従業員に対するコンプライアンス研修等を通じたコンプライアンス意識の高揚とコンプライアンス関連諸規程に基づく職務の執行を徹底しております。また、「役職員コンプライアンス・コード」に基づき、反社会的勢力との一切の関わりを拒絶し、これらに対する毅然とした態度と適切な対応を図るため、各種の基本契約書への暴力団等の排除条項の盛り込み等社内的な整備に努めております。当社は、「SBTグループ内部監査規程」その他社内諸規程に基づき、定期的なモニタリングを実施し、取締役および従業員の職務の執行に係る法令および定款の適合性を確保しております。また、当社は社外取締役比率を増やすことによってガバナンスを強化するとともに、中長期的な経営課題、経営執行の監督、コンプライアンスの確保とコーポレート・ガバナンス上の問題点等を審議しております。

b. 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

当社は、株主総会議事録をはじめ、取締役会議事録、監査役会議事録、事業報告および計算書類等について、法令、定款および「文書保存管理規程」に基づき、所管部署によって管理しております。また、取締役の業務執行に係る文書等についても、法令および「文書保存管理規程」等に基づき、それぞれの所管部署によって保存、管理を行っており、取締役は、従業員に対して、その周知徹底を図っております。

c. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、会社の持続的な発展や役職員等の安全確保を脅かす、外的および内的なリスクを把握し、それに対応すべく次の対策を講じております。

- ・リスクを適切に認識し、管理するための規程として「危機管理規程」および「危機管理基本ガイドライン」を策定して管理責任者を任命し、リスクの種類に応じてリスク毎の主管部署を決め、会社のリスク管理体制を整備しております。

- ・リスク管理に関する危機管理委員会を設置し、リスクに関する情報収集、分析、防止策等について継続して検討しております。

- ・重大なリスクが顕在化した場合には、緊急対策本部を設置し、被害を最小限に抑制するための適切な措置を講じます。

また、災害等の危機管理に関しては、安否確認システムの導入等により役職員等の安全確保を図っております。さらに、情報セキュリティ活動を主導するため、情報セキュリティ対策会議を設置し、情報関連諸規程に基づく情報セキュリティ体制の整備や監査および教育を実施しております。

d. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、「取締役会規程」において取締役会の任務と運営を明確にするとともに、決議・報告すべき事項を明記しております。また、「権限規程」によって、職務権限と意思決定の適正化を図り、効率的な運営体制を確保しております。また、経営環境の変化への機敏な対応と取締役の経営責任を明確にするため、取締役の任期を1年としております。あわせて、経営責任の明確化と意思決定・業務執行の効率化を図るため、執行役員制度を導入しております。

e. 当社グループにおける業務の適正を確保するための体制

当社は、「SBTグループ憲章」を定め、当社グループに共通する行動規範としております。また、グループ会社の自主性を尊重しつつ、円滑な事業運営を図るため、「SBTグループ会社管理規程」を定め、主管部門を設置してグループ経営の一体性と効率化を図るとともに、以下の体制を整備しております。

- ・当社から主要な子会社に役員を派遣し、子会社の取締役会を通じて、子会社の事業状況および財務の状況を把握しております。また、毎月当社の取締役会で事業内容の報告と重要案件に係る審議が行われております。

- ・「SBTグループコンプライアンス規程」を定め、グループ全体のコンプライアンスを推進するとともに、「フリー・アクセス・ライン」(ホットライン)の適用範囲をグループ会社まで広げ、当社グループにおけるコンプライアンス実効性の確保に努めております。

- ・当社グループ全体のリスク管理の整備・強化に向けて、「SBTグループリスク管理規程」を定めるとともに、必要に応じて子会社に対しても業務監査を実施し、リスクの監視に努めております。

f. 監査役の職務を補助すべき従業員に関する体制、当該従業員の取締役からの独立性に関する事項および当該従業員に対する指示の実効性の確保に関する事項

当社は、現在、監査役の職務を補助する専属の従業員を配置していませんが、監査役からの求めがあるときは、内部監査室を始めとする各部門の従業員がその職務を補助します。監査役の職務を補助する従業員は、監査役から指示を受けたときはその指示を優先し、その指示に関して、取締役等の指揮命令を受けないものとしております。

g. 当社および子会社取締役および従業員が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

当社および子会社の取締役および従業員は、業務執行において法令、定款に違反する事実、および会社に著しい損害を与えるおそれのある事実を発見したときは、ただちに報告すること、また、当社および子会社の取締役は上記報告義務について、その周知徹底を図ることとしております。また、取締役および従業員は、監査役から業務執行に関する事項の報告を求められた場合には、すみやかに報告することとしております。さ

らに、監査役は、内部監査室から監査結果の報告を受け、追加監査や改善策の必要性を認識したときは、その指示を行うことができます。当社および子会社は、監査役へこれらの報告を行った者に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いを行うことを禁止し、その旨を周知しております。

h. 監査役の職務の執行について生ずる費用の前払いまたは償還の手続その他の職務の執行について生じる費用または債務の処理に係る方針に関する事項

当社は、監査役がその職務の執行について必要な費用の前払い等の請求をしたときは、すみやかに当該費用または債務を処理することとしております。

i. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、内部監査室および会計監査人から監査結果について報告を受けるとともに、監査の実施にあたっては、連携をとっております。また、監査役と内部監査室は定期的に連絡会議を開催しており、情報共有やそれぞれの監査実施状況の報告、その他協同監査の実施等に関して緊密なコミュニケーションを図っております。監査役会は、会計監査人を監督し、取締役からの会計監査人の独立性を確保するため、会計監査人の監査結果については独自に報告を受けております。また、監査役は、取締役会に出席し、意見を述べるとともに、監査役会としての勧告や報告を行っております。

j. 財務報告の適正性・信頼性を確保するための体制

当社は、財務報告の適正性と信頼性を確保するため、「財務報告に係る内部統制基本方針」を策定するとともに、内部統制委員会の設置・統括担当役員の任命等、内部統制を推進するための体制を整えております。さらに、金融商品取引法等の関連法令への適切な対応を図るため、財務報告に係る情報処理システム等を整備し、財務報告の信頼性の向上に取組んでおります。

2. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況 更新

当社は、「役職員コンプライアンス・コード」において、反社会的勢力との一切の関わりを拒絶する方針を定め、これらに対する毅然とした態度と適切な対処を図るため、各種の基本契約書への暴力団等の排除条項の盛りこみ等の社内的な整備に務めております。反社会的勢力から不当要求を受けた場合は、法務総務部が対応窓口として、警察当局、弁護士等の外部専門機関と連携し、毅然とした態度で臨み、断固として拒否することとしています。

その他

1. 買収防衛策の導入の有無

買収防衛策の導入の有無

なし

該当項目に関する補足説明

現時点において具体的な施策は設定しておりません。

2. その他コーポレート・ガバナンス体制等に関する事項 更新

適時開示体制の概要

1. 適時開示に関する基本的な考え方と具体的な開示の方法

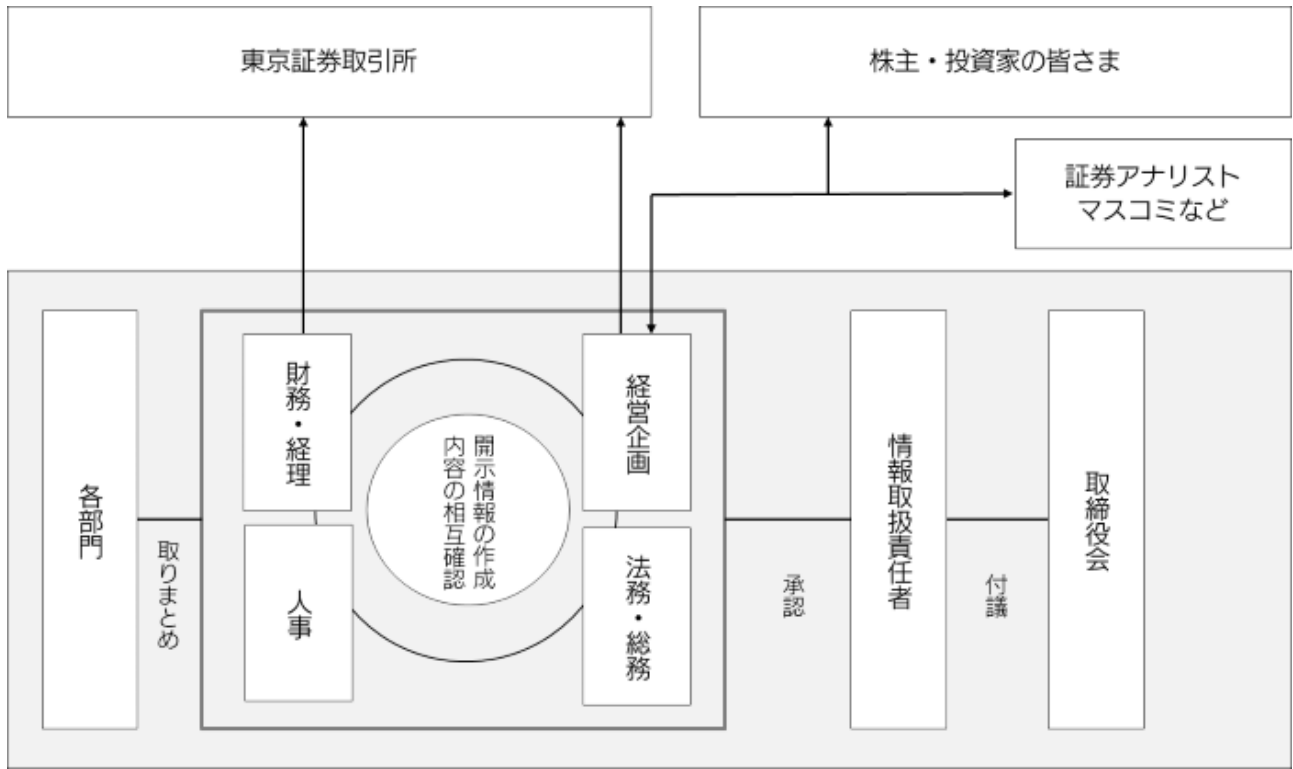
当社は、経営の透明性を高める積極的なディスクロージャーをコーポレート・ガバナンスの一環として重視しており、株主、投資家、取引先等あらゆるステークホルダーが適切な判断をすることができるよう、適時、適正な情報開示を行っております。

東京証券取引所の定める「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示等に関する規則」に従い、「決定事実に関する情報」「発生事実に関する情報」および「決算に関する情報」については、同取引所が運営する「適時開示情報閲覧サービス」(以下TDnet)において開示し、その後、遅滞なく報道機関への発表を行うほか、金融商品取引法その他の法令・諸規則の定めに従い適切に開示手続を行っております。また、TDnetなどで公表した情報は、迅速に当社ホームページに掲載します。また、これら以外の情報につきましても、当社グループとして開示すべきと考える重要な情報は「その他の重要な情報」として積極的な開示に努めております。

2. 適時開示に関する業務の流れ

当社は、適時開示事項については、各部門から収集した情報を経営企画、財務、経理、法務、総務、人事などの関連部署が連携してとりまとめ、その内容により情報取扱責任者および情報取扱責任者が指名する複数の専門部署間で審議を行い、取締役会または情報取扱責任者の承認を経て、すみやかに情報開示の手続きがとられます。また、「その他の重要な情報」についても、その中で開示が必要と思われる事項については、上記の手続きを経て開示されます。

3. 適時開示に係る社内体制と業務の流れ



<コーポレート・ガバナンス体制図>

